

<p>も動物胚と同様に無駄にせず、今後の発展のために使えばよい。</p> <p>○今生きている人々の幸福を追求する権利から、ヒト胚を利用することも認められるべき。</p> <p>○日本がヒト胚研究を進めることは国益にかなう。</p> <p>○ヒト胚の研究に反対するのは、健康で、体が悪いつらさを理解できない人ばかりではないか。</p> <p>○使用される受精卵は決して無駄になるわけではない。誰かの体の一部になり、その人の命の一部として生きることが出来るなら、それは逆にとてもいいこと。</p> <p>○ヒト胚研究には倫理的問題はない。</p> <p>○研究目的で新たに胚を作成し使用する場合は、原始線条形成までに限定すべき。</p>

主要論点	主要論点についてのご意見の例	ご意見に対する生命倫理専門調査会の考え方
11. その他	<p>○報告書の結論のポイント、特に、これまでの指針等の方針とどこが、何故、どのように変わったのかが一目でわかるよう、最初に要約を付けるべき。また、付録は最小限に絞り、脚注の形で入れるべき。</p> <p>○いろいろな立場と考え方を示した中間報告書の評価。</p> <p>○宗教からの基本的立場は、公的規制等を直接的に表明するのではなく、その宗教の教理から人々の生命観・死生観に訴え、反省を促すもの。</p> <p>○創造主のことや我々と霊界の関係を知った上で本当に人の為になる研究を進めるべき。</p> <p>○非科学的なカトリックの教えに影響を受けた国の政策に同調すべきでない。</p> <p>○「愛」に基づいて決定してほしい。新技術が人類を幸福にし得るのであれば、大いに研究してほしい。</p> <p>○人間が生命を支配できれば、「神の存在意義＝人間の創造」がなりたたなくなる。</p> <p>○人間として倫理を重んじる必要がある。</p> <p>○倫理は時代とともに変わるものであることを歴史は語っている。</p> <p>○抽象的な倫理観を人の生命よりも優先するのは本末転倒。</p> <p>○倫理は不変ではない。状況に応じて適時適切に見直されるべき。</p>	<p>調査会の議論の中で、最終報告書は一貫した理論で簡潔に判りやすく書くという方針が示され、それを踏まえてとりまとめられました。</p> <p>生命倫理専門調査会では、宗教、哲学等の分野も含め、幅広い分野の有識者による議論を続けてきました。また、生命倫理専門調査会としては、19人の有識者及び1団体よりヒアリングを行い、事務局としても47人の有識者及び3団体よりヒアリングを行なうなど、幅広い分野の方々からの御意見を伺いました。さらに、本パブリックコメントや東京及び神戸において合計2回のシンポジウムも開催し、国民との直接対話も実施しました。これらを通じてお聞きした御意見は、当専門委員会における専門的見地からの意見交換の参考とさせていただきます。</p>